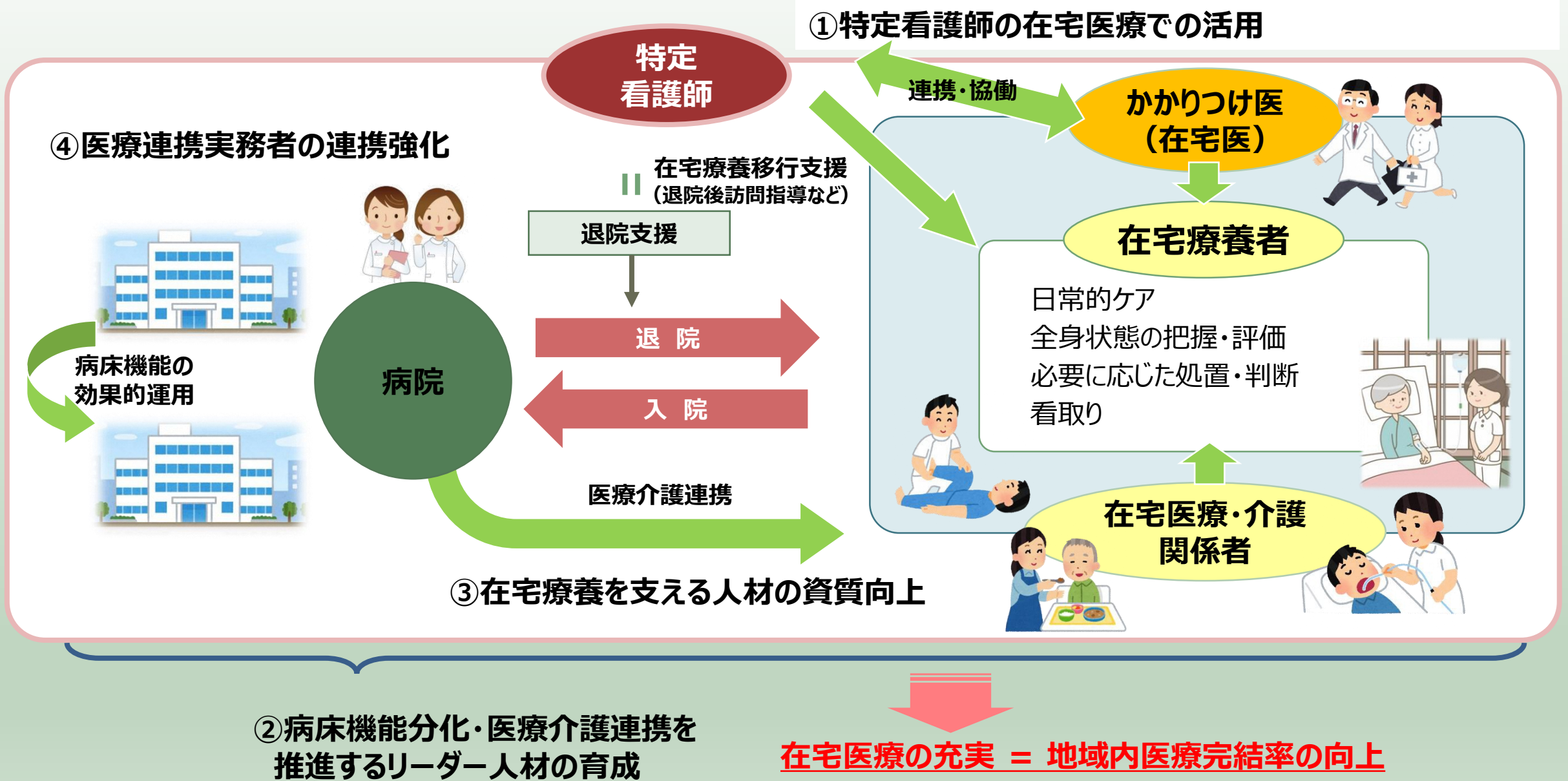


公益社団法人 益田市医師会

令和元年度 **益田圏域医療・介護推進体制構築事業**

～在宅を中心とした安心して暮らせる地域づくりを目指して～

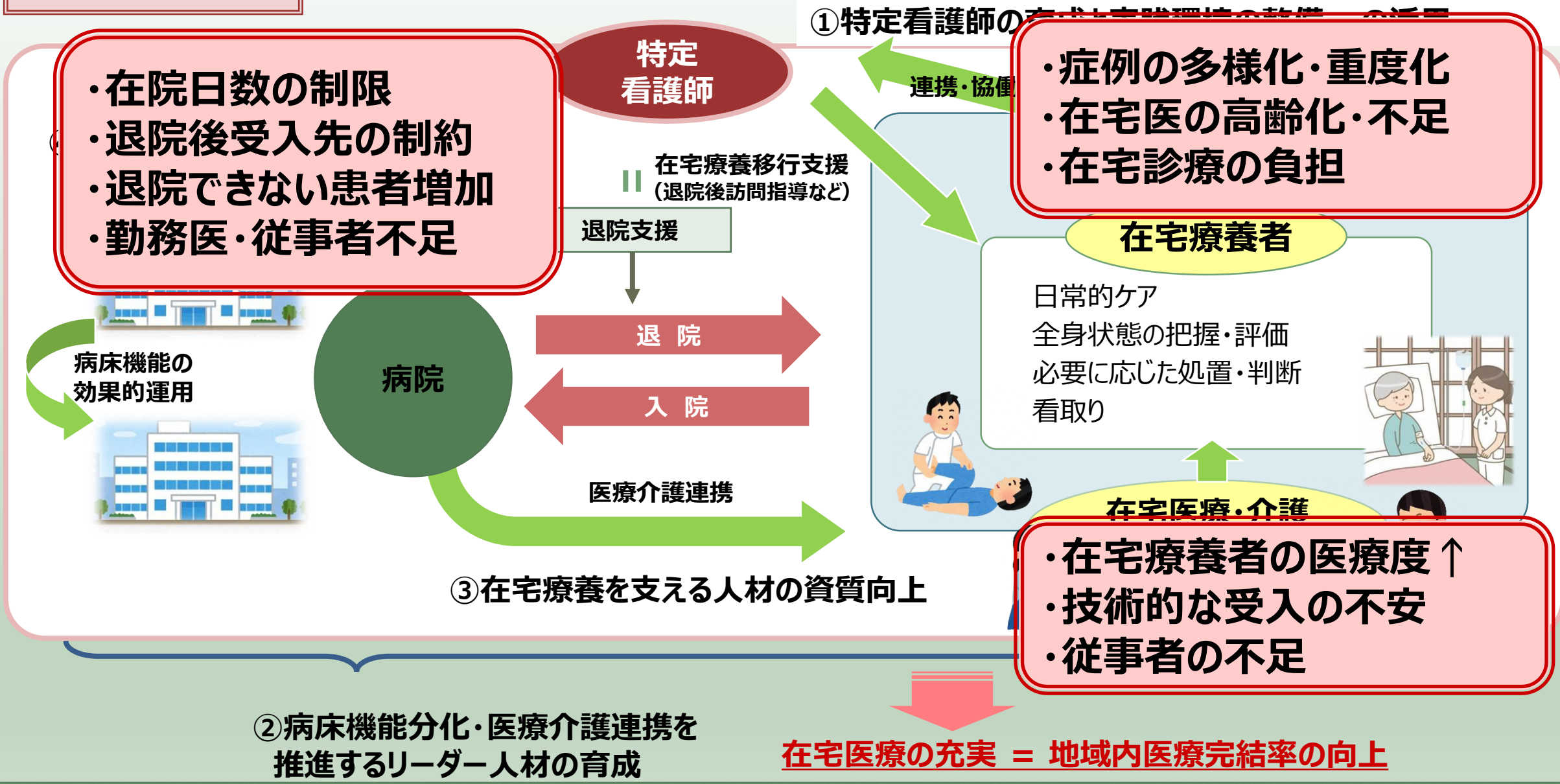
益田圏域医療・介護推進体制構築事業 概要図



在宅療養を希望する方が、
安心して希望する地域で療養が続けられる環境を提供する

課題・問題点

益田圏域医療・介護推進体制構築事業 概要図



- ・在院日数の制限
- ・退院後受入先の制約
- ・退院できない患者増加
- ・勤務医・従事者不足

- ・症例の多様化・重度化
- ・在宅医の高齢化・不足
- ・在宅診療の負担

- ・在宅療養者の医療度 ↑
- ・技術的な受入の不安
- ・従事者の不足

在宅療養を希望する方が、安心して希望する地域で療養が続けられる環境を提供する

課題・問題点

- ・在院日数の制限
- ・退院後受入先の制約
- ・退院できない患者増加
- ・勤務医・従事者不足

- ・症例の多様化・重度化
- ・在宅医の高齢化・不足
- ・在宅診療の負担

- ・在宅療養者の医療度 ↑
- ・技術的な受入の不安
- ・従事者の不足

- ・病床機能の効果的運用
- ・地域内での療養完結 etc…



解決へ向けての目標

- 医師・看護師・介護職等、医療・療養に関わる人々の間で、患者に関する情報共有体制・協働体制を構築できる
- 地域医療連携実務者の連携強化

- 退院後、自宅での療養開始時・療養中、病状変化に合わせた適切な処置・判断が受けられる
- 在宅医療での特定看護師の有効活用
 - 在宅療養支援者の資質向上

- 圏域の病床・病棟機能を有効に活用するための環境が整備できる
- 医療介護連携を推進するリーダー人材育成
 - 介護力強化のための介護リーダー人材育成

医療連携実務者の連携強化

入退院調整の要となる地域医療連携実務者同士の連携強化によって、転院困難事例等に対応しやすい関係性を構築し、在宅へ向けた病院間の病床の有効活用や各種連携ツールの活用につなげる。

益田圏域医療連携実務者会議（年3回定期開催／8月・12月・2月）

◆参加者：圏域5病院の地域連携実務者、保健所、市町担当者、訪問看護ステーション

◆議 題：

- ①近況報告
- ②圏域内の円滑な病床利用について
- ③入退院連携について
- ④情報共有方法について
- ⑤在宅困難ケースの検討 など



訪問看護ステーションの現状や、まめネットについての説明会を実施

【結果】

- ①他病院の担当者と顔を会わせることにより、連携がとりやすくなった
- ②圏域内の問題点を共有し、解決のためには保健所や市町と連携することが必要
- ③情報共有を、効率的効果的にすることが必要
- ④ACPの住民啓発が必要
- ⑤介護支援専門員と医療知識の勉強会をして連携をスムーズにしよう



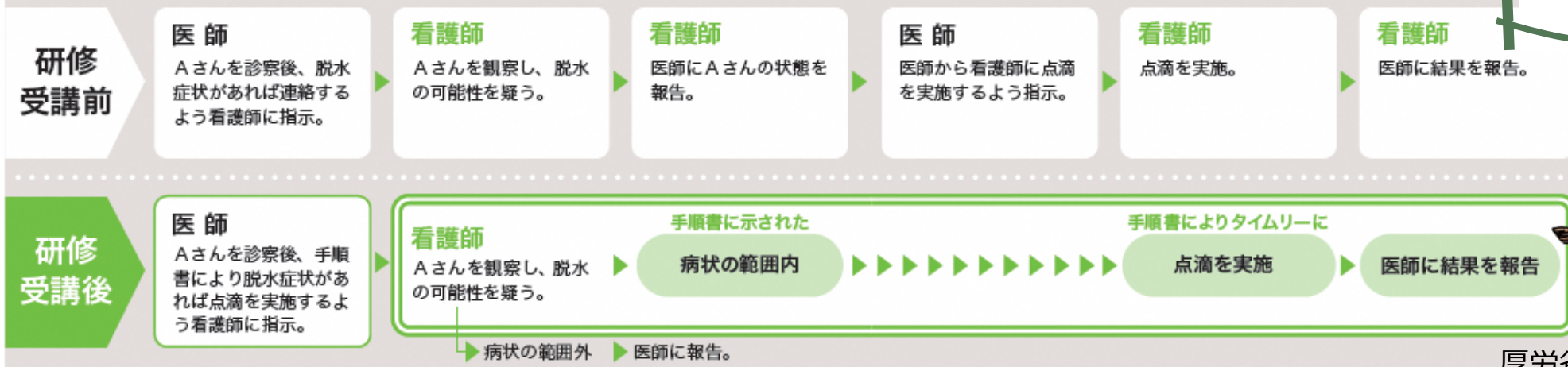
次年度の検討テーマとして継続する

特定看護師の在宅医療での活用

在宅医の高齢化が進む当圏域において、特定看護師を育成・活用し、医療・看護双方の視点で質の高い医療ときめの細かいケアを効率的に提供する。

医師の判断を待たずに、手順書により一定の診療補助を行うことが可能！
(病状観察・判断の訓練)

▶ 研修を受けるとこのようになります 特定行為の実施の流れ (脱水を繰り返すAさんの例)



特定行為

厚労省リーフレットより



超音波診断装置の研修



診療所実習 最終日の様子

医師会病院では、現在5人目の特定看護師を養成中！

= 特定看護師の技能向上 =

- 病状の変化を的確に判断するため、病棟でのエコー観察等の実践研修を実施
- 在宅医療の理解向上のため会員医療機関での診療所実習を実施

特定看護師の在宅医療での活用



グループホーム連絡会研修会へ特定
看護師を講師派遣

開催日R2.10.18 参加者30名（グループホーム連絡会主催）

「認知症高齢者が多く利用者自身が不調を言葉にして伝えられない」
⇒ 利用者の病状変化に早く気づき、アセスメントし、医療につなぐ視点を身に着ける

- ・高齢者の些細な体調変化の観察ポイント（意欲低下・食欲不振・排便等）
- ・転倒時の対応（どんな時に受診すべきか）
- ・受診のタイミング（囑託医・看護師不在時の体調不良など）



退院後訪問 褥瘡の観察



退院後訪問 エコー観察

退院時訪問・在宅訪問指導 14件実施

- ・在宅療養が困難と思われた方の退院につながる
- ・家族や介護施設のスタッフ、訪問看護との連携を図る中で退院後訪問の意義、特定看護師の役割など認知してもらうことができた

在宅療養を支える人材の資質向上

医療度・介護度が高い方の在宅移行を進めるために、受け入れ側となる在宅療養を支える従事者の資質向上を図る。

シミュレーション研修会

- ◆目的：在宅医療を支える従事者に対して、患者の観察力と判断力を養う
- ◆対象：地域の介護職や訪問看護師、施設の看護師
- ◆講師：島根大学医学部附属病院スキルアップセンター 狩野賢二先生

シミュレータモデル

医療現場で出会う患者さんの代表的な訴え・症状を観察できる優れたものです。



心音、呼吸音を聴取しています



瞳孔も観察できます



正しい血圧測定を学びます

対象者別研修	回／年	延参加者数（R1年度）
地域の介護職	2回	28人
訪問看護・施設の看護師	2回	16人
病院・老健 職員（内部インストラクター講師）	15回	144人



会場：在宅医療介護連携研修センター

地域でリーダー的役割を担える医療介護人材の育成

病棟機能の効率的運用と在宅療養への円滑な移行を推進する介護リーダー人材の育成を行い、介護教育体制の標準化や現場の閉塞感・硬直化からの脱却を図る。

①先進地の視察

- ◆場 所：社会医療法人愛仁会グループ
社会福祉法人愛和会（大阪府）
- ◆日 時：令和元年11月6～7日
- ◆参加者：看護介護職員 5名を派遣



『「こうしたい！」を実現するための検討会』を見学

②介護プロフェッショナルキャリア段位制度 アセッサー養成

- ◆アセッサー講習の受講 7名修了

国で定めた評価基準に基づき、介護技術の評価・OJTを通じて、介護職員が「できていないこと」を「できる」ようになるまで「育成・指導」を行う役割を担う者



次年度以降の事業実施に向けた課題

『共有・協働』

- 医療介護連携に強化に向けた連携ツールの具体的活用の進展
- ACPの普及啓発
- 入退院連携ガイドの有効活用

『受入能力』

- 訪問診療等在宅分野での特定看護師の具体的な活用体制の構築
- 介護施設等への専門的な医療情報・アドバイスの提供
- 在宅療養支援者の介護力向上

『推進力』

- 環境変化が少ない介護現場の活性化
- 新たな介護人材の定着のための標準化された指導方法・教育プログラムの構築

今後、在宅医療を担う医師の高齢化や従事者の不足により、地域の在宅医療を取り巻く環境が更に大きく変化することが予想される。

在宅医療の質・量の維持のためにも、更なる連携と効率化が必要であり、本事業で取り組んできた特定看護師の有効活用や在宅医療を支える従事者の資質向上、地域医療を支える医療連携実務者の連携強化等の取り組みを継続し、また新たな取り組みを加えることで、次の地域の課題に対処していききたい。